

大麦管理情報 (第5号)

令和6年3月1日
農業技術課広域普及指導センター

1 気象経過

- (1) 12月：平年に比べ、平均気温は6.9℃（平年差+1.2℃）と高く、降水量は313.5mm（平年比111%）と多く、全天日射量は5.2MJ/m²/日（同104%）と並であった。
- (2) 1月：平年に比べ、平均気温は4.2℃（平年差+1.2℃）と高く、降水量は226.5mm（平年比87%）と並、全天日射量5.5MJ/m²/日（同93%）と少なかった。
- (3) 2月：平年に比べ、平均気温は5.6℃（平年差+2.2℃）とかなり高く、降水量は225.0mm（平年比131%）と多く、全天日射量は8.1MJ/m²/日（同93%）と少なかった。
- (4) 積雪5cm以上の日数は、2月末日現在で22日であった。

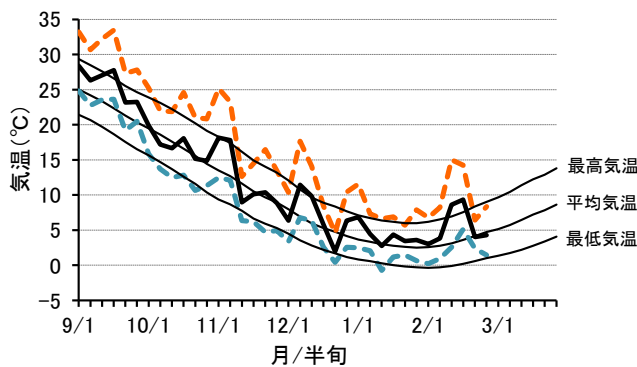


図1 気温の推移 (富山地方気象台)

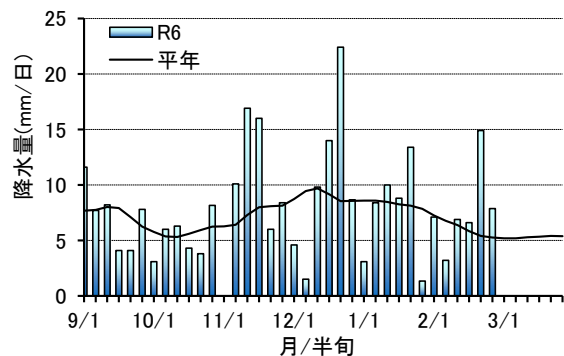


図2 降水量の推移 (富山地方気象台)

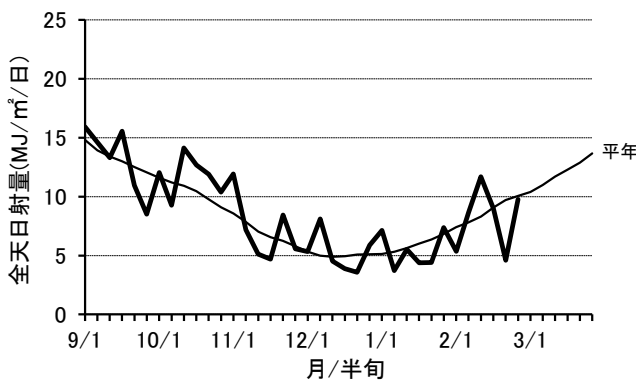


図3 全天日射量の推移 (富山地方気象台)

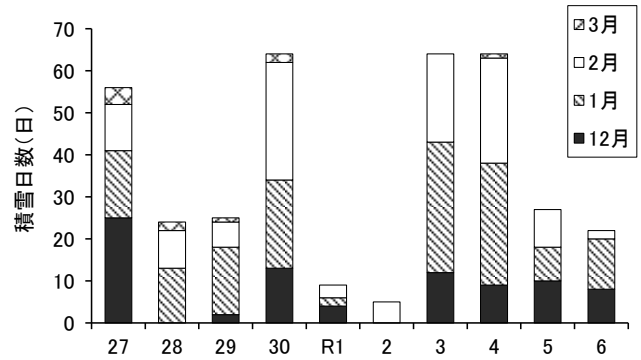


図4 年次別の積雪5cm以上の日数 (富山地方気象台)

注) R6年産は、2月末日現在の日数

2 生育概況

平年に比べ、草丈は長く（平年比106%）、茎数はやや少なく（同92%）、葉齢の展開はかなり早く（平年差+1.2葉）、葉色は並（同+0.2）となっている。また、幼穂長は0.4cmと平年より長くなっている。

表1 大麦生育観測ほ等調査結果（3月1日）

	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (葉)	葉色 (SPAD)	幼穂長 (cm)	積雪日数 (積雪5cm以上)
		(本/株)	(本/m ²)				
6年産	23.8	4.6	715	10.5	40.6	0.4	22
5年産	27.1	5.0	837	9.6	38.8	0.3	27
平年	22.5	4.4	773	9.3	40.4	0.3	36

注1) 調査ほ場数：10、播種様式はすべてドリル播き

注2) 平年はH26～R5年産の平均

注3) R6年産の積雪日数は、2月末日現在の日数、平年の積雪日数は、過去10年間（H26～R5）の平均

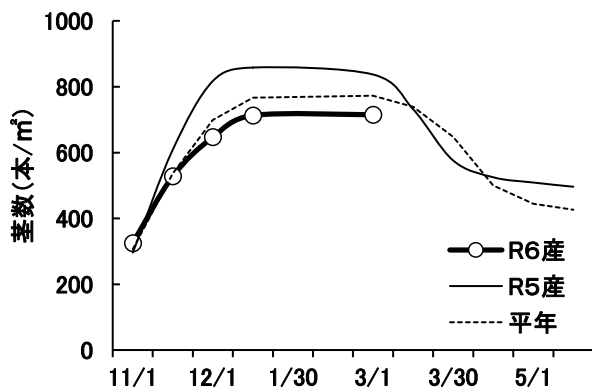


図5 茎数の推移

注) 平年はH26～R5年産の平均

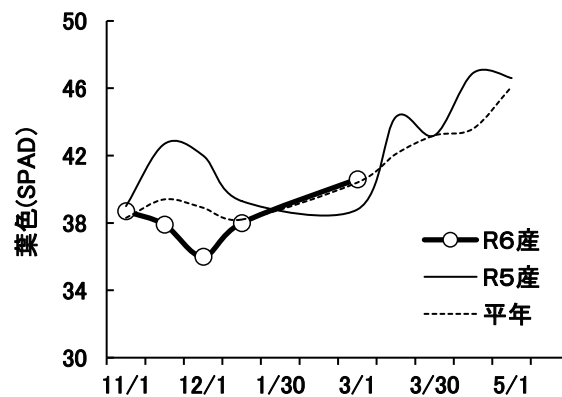


図6 葉色の推移

注) 平年はH26～R5年産の平均

3 当面の技術対策

(1) 排水対策

ほ場の排水状況の点検を行い、ほ場内に水が停滞しないよう、排水溝の手直しを行うとともに、深く掘り下げた排水口への連結を徹底する。

(2) 消雪後追肥

ア 肥効調節型基肥栽培

肥料成分の溶出が登熟後半まで続くため、追肥は行わない。

イ 分施栽培

まだ消雪後追肥を施用していないところでは速やかに追肥を施用する。ただし、生育が旺盛な場合は減肥する(表2)。

表2 分施栽培の施肥量の目安

茎数	10a当たり窒素追肥量
少～並	4 kg
多	2～3 kg

注) 茎数多: m²当たり1,200本以上

(3) 防除作業等に向けた準備

本年は積雪日数が少なかったため、生育が早く、出穂期は平年(4/16)より早いと見込まれており、今後も気温が高く推移した場合は、出穂期がさらに早くなると見込まれる。このため、今後の気象や生育状況をみながら、赤かび病の防除作業(穂揃期とその7日後)が遅れないように準備する。また、分施栽培では止葉展開期を必ず確認し、追肥作業が遅れないようにする。

表3 生育ステージと出穂期予想

年次	止葉展開期	出穂期	積雪日数 (5cm以上日数)	平均気温 (3月:℃)
6年産	(3/25) ※1	(4/5) ※1	22	—
	(3/22) ※2	(4/2) ※2		
5年産	3/28	4/9	27	10.3
2年産	3/24	4/7	5	8.4
平年	4/5	4/16	36	8.2

注1) () は幼穂長からの予想、平均気温を※1は平年±0、※2は平年+1℃で算出

注2) 平年はH26～R5年産の平均、平均気温は富山地方気象台(H26～R5年)のもの。

注3) R6年産の積雪日数は、2月末現在の日数